

ワークショップ：「インターセクショナリティとジェンダー視点の主流化ーバングラデシュ地域研究から」（「南アジアの社会変容」研究会、2023年7月28日）

報告：「趣旨説明：インターセクショナリティ（交差性）とジェンダー視点の主流化ーバングラデシュ地域研究から見た」

報告者：池田恵子 静岡大学

バングラデシュでは、近年の目覚ましい経済成長と社会開発に伴い、教育、保健、雇用などにおける男女差は急速に縮小している。また、小規模金融の普及や縫製産業の勃興は、女性の就労機会の多様化や地位の変化を促したとされる。

本報告では、現代バングラデシュの社会変動を理解する重要な切り口であるジェンダーの視点に、1980年代の北米でブラック・フェミニズムから提唱されたインターセクショナリティの視点を加えることで、ジェンダーと他の要因とが結びついてつくりだされる重層的な権力構造と、要因同士の相互変化を理解し、より立体的にバングラデシュ社会の変化を可視化できないか検討する。

一方、南アジア社会には、サバルタン研究や第三世界フェミニズムの成果も蓄積されている。それらも踏まえながら、女性の複数性を前提とし、かつ女性の側から見た社会変動の経験を、多角的かつ総体的に描き出せないか検討する。